

災害時がれき処理で協力

県と清掃事業連合会が協定

県は三日、県内の廃棄物処理業者十二社でつくる「一般社団法人「県清掃事業連合会」(片野宣之会長)



協定を締結した片野会長(左)と鈴木知事(右)県庁で

と、災害時の廃棄物処理に関する応援協定を締結した。

協定は、災害時がれきなどの処理要請が市町からあった場合、県が連合会に協力を求めることなどが盛り込まれている。県庁で協定締結式があり、鈴木英敏知事と片野会長が協定書に調印した。

鈴木知事は、南海トラフ巨大地震が発生した場合、東日本大震災の十一倍に当たる三億五千万トンの廃棄物が全国で発生し、処理に二十年かかるこの国の推計を示し、「一日も早く復興を進めるためには、がれきの処理は重要。いざという時に連携が取れるようにしたい」と述べた。

連合会は、大震災で被災した岩手県大槌町や紀伊半島大水害時で廃棄物処理に当たった経験があり、片野会長は「廃棄物を迅速に処理しないと、衛生上の二次災害が起こる。ノウハウを生かし、災害が起きた時は地域の復旧に努めたい」と話した。

災害時 廃棄物を迅速処理

大規模災害時に大量発生が見込まれるがれきや廃棄物を素早く処理するため、県は三日、県内の廃棄物処理業者十一社でつくる県清掃事業連合会と応援協定を交わした。

応援協定では災害時、県からの要請に基づき、連合会が災害廃棄物の撤去や運搬などに協力する。県がこう

県、清掃事業連合会と協定



協定書に署名する県清掃事業連合会の片野宣之会長(左)と鈴木英敬知事(右)県庁で

した協定を結ぶのは、県産業廃棄物協会や県環境整備事業協同組合

「手間」と「時間」をにかけて「どおり」熱誠「こたわりの」愛誠誠意です。

伊賀越 伊賀越 伊賀越
0120-345-690

なる。連合会は東日本大震

災や紀伊半島豪雨の際、被災地へ入り、水に漬かった畳や家財道具の運搬に携わった。県庁で協定書締結式に出席した連合会の片野宣之会長は「災害廃棄物は迅速に処理しないと悪臭が発生し、衛生上の二次被害となる。ノウハウを生かし、災害復旧に貢献したい」と話した。(加藤弘二)

大規模災害備え がれき処理協定

県と清掃事業連合会

南海トラフ巨大地震などの大規模災害に備え、県と県清掃事業連合会(片野宣之会長)は3日、災害によって大量のがれき・ごみが発生したときに、連合会加盟の11社が処理を手伝うという応援協定を結んだ。がれき処理の協定を県が締結するのは、2004年の県産業廃棄物協会、県環境保全事業団について3団体目となる。

県庁での締結式で、鈴木英敏知事は「南海トラフ巨大地震では莫大な量のがれきが想定され、自治体だけ

では対処できない。一日も早く復興を進めるためには、がれき処理が大変重要だ」と感謝した。片野会長は「迅速に処理しないと悪臭や害虫といった衛生上の二次災害が出る。東日本大震災や紀伊半島大水害でも応援に行った経験を生かしたい」と述べた。

県廃棄物・リサイクル課によると、昨年3月の内閣府の被害想定では、南海トラフ巨大地震が起きれば県内で最大約3200万トンのがれき・ごみが発生するとしている。東日本大震災のがれき・ごみの総量は約3千万トンドった。